

平成26年度(27年3月期) 第1四半期連結決算概要

1.平成26年度 第1四半期 決算実績 <対前期>

(1)決算実績のポイント

増収増益：増収は5期連続、増益は2期ぶり。

売上高・各利益とも歴代1位。

(これまでの過去最高)売上高は25年度、各利益は21年度

ガス販売量	+270百万m ³	:鹿島地区を中心とする工業用(主に発電用)需要増
売上高	+604億円	:ガス販売量の増加及び原料費調整により都市ガス売上は453億円増 :電力・LNG販売等のその他エネルギー売上高181億円増
営業費用	+404億円	:ガス原材料費が数量増及び円安影響等により340億円増(当期2,409←前期2,069) :電力・LNG販売等のその他エネルギーに関わる費用が増
営業外損益	0億円	:為替差損益+15億円(当期3←前期△12)、 :持分法による投資利益△8億円(当期5←前期13)、専用設備料収入△4億円(当期0←前期4)
特別損益	+49億円	: (当期) 固定資産売却益54億円、投資有価証券評価損△5億円 : (前期) なし

<26年6月末現在連結会社数:連結子会社67社、持分法適用関連会社6社>

(単位:億円)

決算実績表	26年度1Q	25年度1Q	増減	%
ガス販売量(百万m ³ , 45MJ)	3,657	3,387	270	8.0
売上高	5,340	4,736	604	12.8
営業費用	4,740	4,336	404	9.3
営業利益	600	399	201	50.3
経常利益	596	396	200	50.5
当期純利益	447	260	187	71.8

経済フレーム	為替レート(¥/\$)	原油価格(\$/bbl)	平均気温(°C)(※)
26年度1Q	102.17	109.52	17.8
25年度1Q	98.78	107.75	17.5
増減	3.39	1.77	0.3

(※)お客さまそれぞれの、ご使用期間(前月の検針日から当月の検針日まで)における気温を平均したもの。

(2)ガス販売量

		26年度1Q	25年度1Q	増減	%	
ガス販売量	お客さま件数	千件	11,137	10,995	142	1.3
	家庭用	百万m ³	835	837	△2	△0.3
		百万m ³	595	600	△5	△0.9
		百万m ³	1,756	1,483	273	18.4
	計	百万m ³	2,351	2,083	268	12.8
	他事業者向供給	百万m ³	471	466	5	1.0
	合計	百万m ³	3,657	3,387	270	8.0

家庭用 :5月分から6月分の気温が前期と比較して高く推移した影響による給湯需要減
 業務用 :検針日程の関係でガスのご使用日数が前期と比較して少なかったことによる需要減
 工業用 :鹿島地区を中心とする発電用需要の増
 他事業者向供給 :供給先事業者の需要増

(3)セグメント別売上高・セグメント利益

(単位:億円)

	売上高				セグメント利益			
	26年度1Q	25年度1Q	増減	%	26年度1Q	25年度1Q	増減	%
都市ガス	3,898	3,445	453	13.2	553	435	118	27.2
器具及びガス工事	403	423	△20	△4.7	6	6	0	△1.5
その他エネルギー	975	794	181	22.7	97	35	62	170.7
(電力)	412	285	127	44.7	74	27	47	167.3
不動産	65	73	△8	△10.3	16	16	0	4.1
その他	460	405	55	13.4	28	6	22	373.6
(海外)	76	37	39	101.1	20	3	17	518.0
調整額	△463	△406	△57	—	△102	△100	△2	—
連結	5,340	4,736	604	12.8	600	399	201	50.3

(注)セグメント別売上高には事業間の内部取引を含んでいる。セグメント利益の調整額の主なものは各セグメントに配賦していない全社費用。

(4)主要計数

(単位:億円、%)

	26年度1Q	25年度1Q	増減		26年度1Q	25年度1Q	増減
設備投資	388	803	△415	D/Eレシオ	0.75	0.71	0.04
営業キャッシュ・フロー	783	584	199	ROA	2.1	1.3	0.8
有利子負債	7,464	7,138	326	ROE	4.5	2.8	1.7

(注)有利子負債、D/Eレシオは26年3月末との比較

2.平成26年度 通期見通し <対前回(4.28)見通し>

(1)通期見通しのポイント 対前回減収増益(対前期は増収減益)

ガス販売量	:第1四半期の高気温影響等により家庭用需要は40百万m ³ 減少(△1.2%)する一方、発電用を中心に工業用需要は120百万m ³ 増加(+1.7%)すること等により、60百万m ³ 増加(+0.4%)の見通し
売上高	:原料費調整による都市ガス事業、電力事業の減収等により、100億円減少の見通し
営業費用	:主に都市ガス原材料費の減少により、130億円減少の見通し
営業利益	:主に都市ガス事業の増益により、30億円増加の見通し
当期利益	:営業利益の増加に加えて、固定資産売却益の増加等により、30億円増加の見通し :前提となる経済フレームは変更なし(7月以降、為替レート105円/\$、原油価格110\$/bbl)

(単位:億円)

	今回	前回	増減	%	25年度	増減	%
ガス販売量(百万m ³ , 45MJ)	15,326	15,266	60	0.4	14,735	591	4.0
売上高	22,880	22,980	△100	△0.4	21,121	1,759	8.3
営業費用	21,550	21,680	△130	△0.6	19,460	2,090	10.7
営業利益	1,330	1,300	30	2.3	1,660	△330	△19.9
経常利益	1,260	1,230	30	2.4	1,596	△336	△21.1
当期純利益	970	940	30	3.2	1,084	△114	△10.6

(単位:億円)

経済フレーム	為替レート(¥/\$)	原油価格(\$/bbl)	平均気温(°C)
26年度	104.29	109.88	16.9
25年度	100.17	110.00	17.0
増減	4.12	△0.12	△0.1

為替・原油変動影響感度(2Q以降)	売上高	原料	営業利益
円・ドルレートが¥1/\$円安	56	71	△15
原油価格JCCが\$1/bbl上昇	31	50	△19